

## 2 陽性割合

阪神圏では首都圏のような保健所等でのMSM受検機会を拡大する介入体制が構築されず、定点7クリニックでのMSM受検促進となった。HIV陽性率は定点クリニック検査では経年的に高い割合で推移し、研究期間では5.5%であった。また、大型啓発イベントPLUS+と並行して迅速検査会MaQを実施した。その結果全受検総数のうちの陽性割合は3.6%で、関西在住のMSMのうちの陽性割合は5.1%であり、MSMに向けた検査機会として有用であった。

### MaQ検査会結果

資材配布  
(受検を希望する方へ・確認用紙)

来場 **214人**

リスクスクリーニングの結果、**42人が受検しないことに決定**

検査セット(受験番号)発行 172人

事前説明待合・事前説明にて、**3人が受検しないことに決定**

採血 **169人**

結果受取 **169人**  
そのうち**6人が要確認検査結果**

確認検査の結果**6人とも陽性結果**  
(陽性率3.6%)

個別相談利用:**4人**

採血会場...1人  
結果会場...3人

受検者全員がスクリーニング検査結果受取

要確認検査結果の**6人全員が結果受取**  
そのうち...  
**カウンセリング利用:1人**

陽性結果の**6人全員が結果受取**  
そのうち...  
**カウンセリング利用:4人**

**受診前相談利用:2人**  
全員が医療機関を受診

## 3 MSM受検者で本研究の啓発資材に曝露された割合

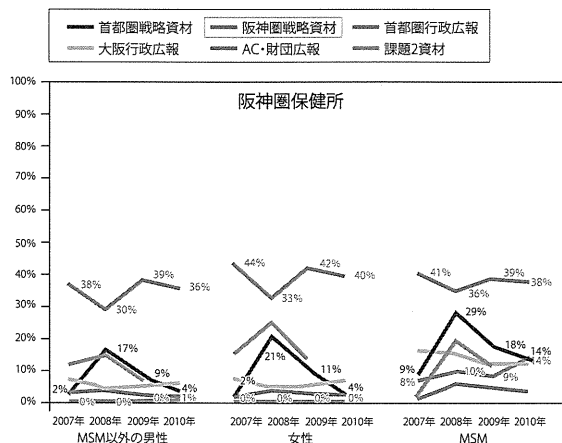
[保健所のHIV検査受検者に占める介入資材認知割合]

阪神圏保健所のMSM受検者における阪神圏資材の認知割合は7.6%から13.9%であった。

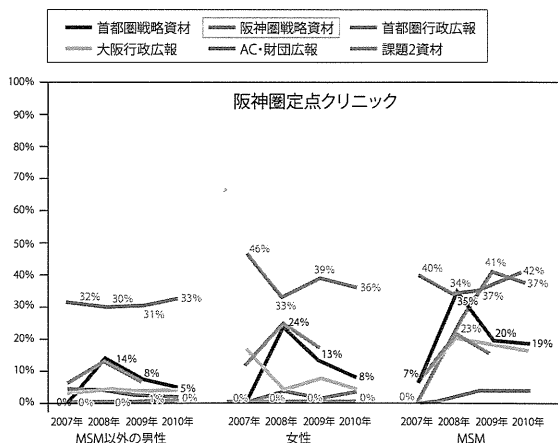
[クリニックのHIV検査受検者に占める介入資材認知割合]

阪神圏定点クリニックのMSM受検者における資材認知割合は、0.0%(2007年)から37.2%(2010年)と上昇し、キャンペーンの効果が示された。

性別・施設別 広報資材認知割合



性別・施設別 広報資材認知割合



## 4 MSM集団におけるHIV抗体検査の生涯受検率と過去1年間の受検率

阪神圏のMSM集団における生涯受検率は、RDS携帯電話調査では57%(2007年)-68%(2010年)、バー顧客調査では50%(2010年)、過去1年間受検割合は各々の調査で32-38%、29%であった。

## 4.HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数

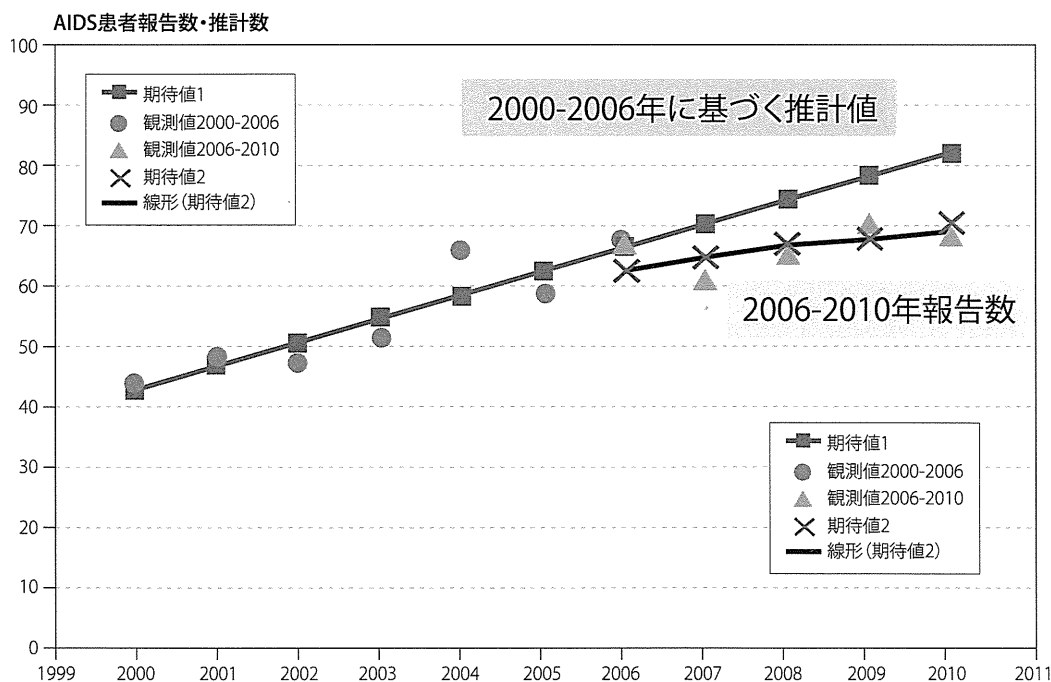
同性間感染のAIDS発症者数は2000年から2006年までの報告値に基づく推計値(橋本修二氏算出)より首都圏では減少し、阪神圏および近畿地域、関東地域を除く対照地域は増加した。

- 首都圏の2000年-2006年の報告数を基に最小二乗法で求めた2010年の推計報告数は82.2で、報告数69件は推計値より16.1%低かった。
- 阪神圏の2000年-2006年の報告数を基に最小二乗法で求めた2010年の推計報告数は31.3で、報告数57件は推計値より82.1%高かった。
- 関東および近畿地域以外の対照地域の2000年-2006年の報告数から最小二乗法で求めた2010年の推計報告数は73.9で、報告数88件は推計値より19.1%高かった。

AIDS患者報告数の介入前後の推移  
2000-2006年と2006-2010年の報告数による推計値の差異

### 首都圏地域のAIDS患者報告数の介入前後の推移

— 2000-2006年報告数による推計値と2006-2010年の報告数の差異 —

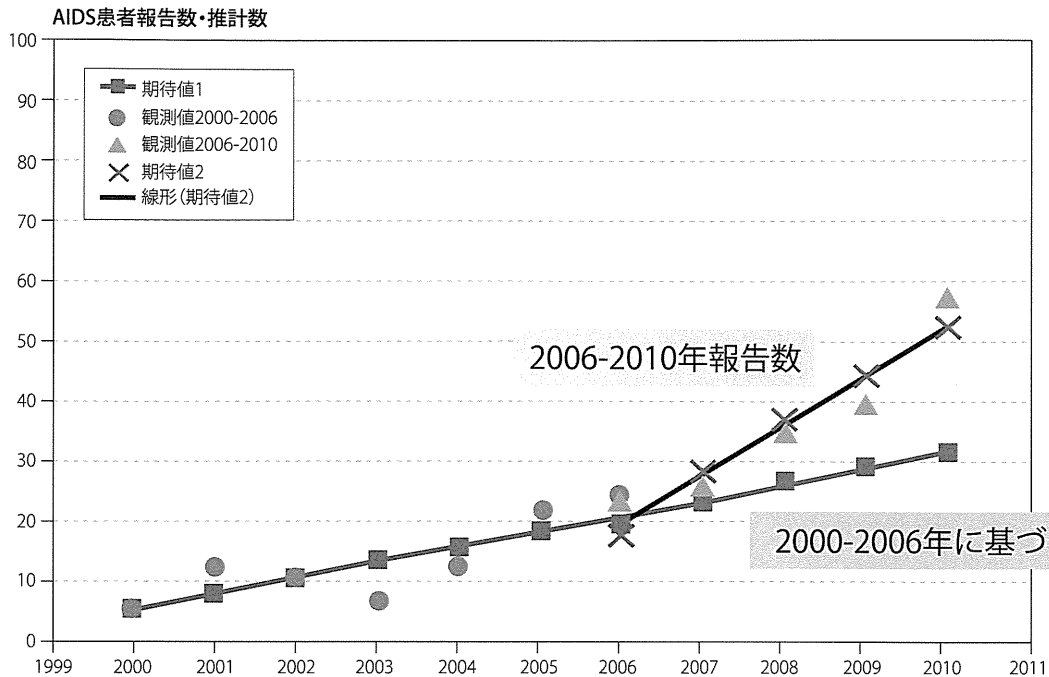


期待値1は2000-2006年報告数から最小二乗法で求めた1次関数により算出  
期待値2は2006-2010年報告数から最小二乗法で求めた1次関数により算出

AIDS患者報告数の介入前後の推移  
2000-2006年と2006-2010年の報告数による推計値の差異

阪神圏地域のAIDS患者報告数の介入前後の推移

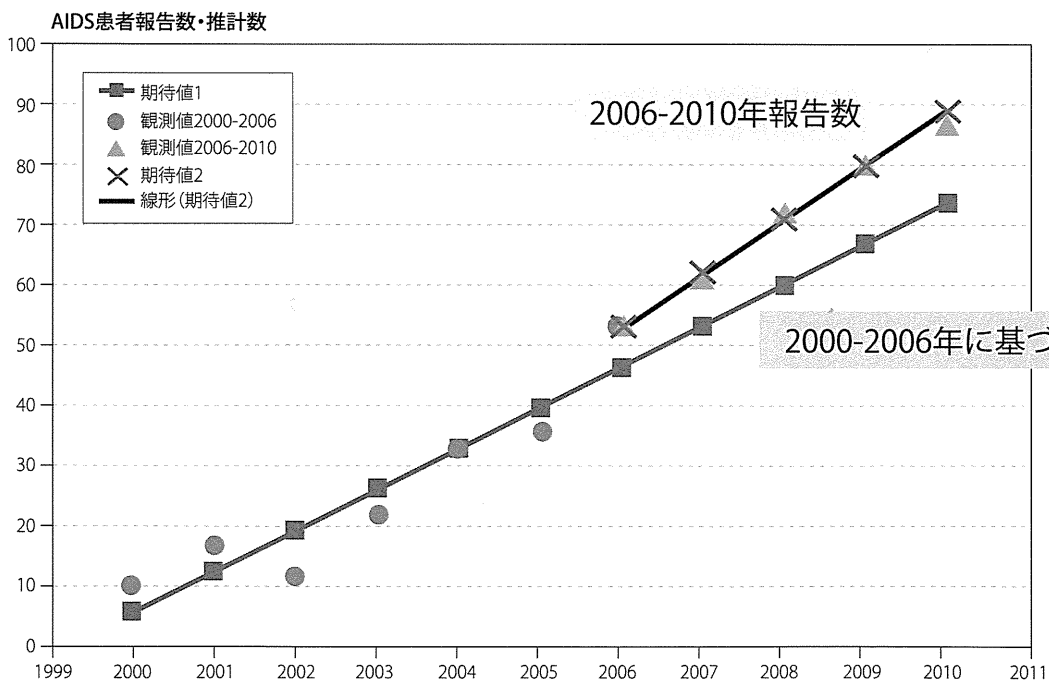
— 2000-2006年報告数による推計値と2006-2010年の報告数の差異 —



期待値1は2000-2006年報告数から最小二乗法で求めた1次関数により算出  
期待値2は2006-2010年報告数から最小二乗法で求めた1次関数により算出

対照地域のAIDS患者報告数の介入前後の推移

— 2000-2006年報告数による推計値と2006-2010年の報告数の差異 —



期待値1は2000-2006年報告数から最小二乗法で求めた1次関数により算出  
期待値2は2006-2010年報告数から最小二乗法で求めた1次関数により算出

## 研究成果の概要

### 1. MSM の HIV 検査と AIDS 発症者について

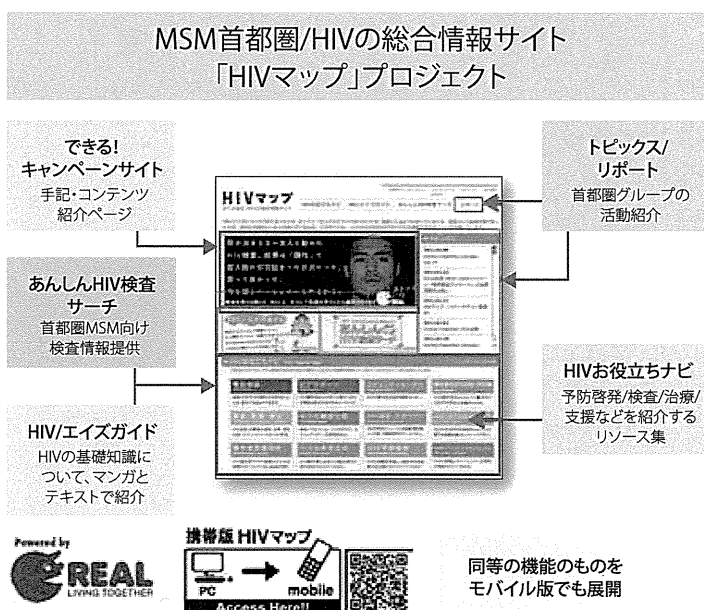
首都圏では保健所を、阪神圏ではクリニックを定点に、MSMが利用する商業施設やWebサイトへの啓発介入により、HIV検査受検促進を図った。保健所等での全受検者数は2008年末に増加傾向を示したが、2009年の新型インフルエンザ流行後に検査件数は減少し、その後横ばいとなった。

首都圏では受検者に占めるMSM割合は定点保健所で高く、男性受検者のHIV陽性割合も上昇し、2010年のエイズ患者報告数は推計値より16.1%減少した。阪神圏では定点クリニックでMSM割合が上昇し、陽性割合も5%と高かったが、2010年のエイズ患者報告数は推計値を超えた。阪神圏では、保健所等でMSM受検機会を拡大する介入体制を構築できなかったことが影響している。

### 2. 首都圏地域の MSM を対象にした啓発介入

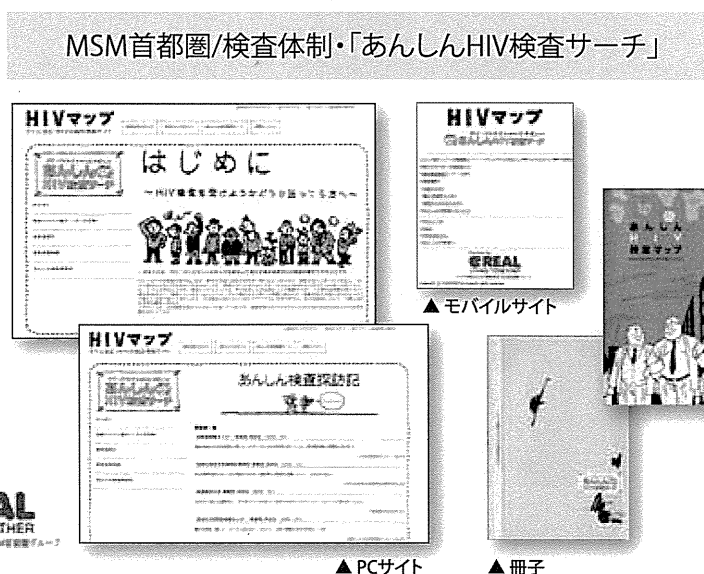
#### ① MSMに訴求性のある啓発介入の開発

首都圏のMSMを対象に、エイズ発症前の検査受検を促進する新たな啓発介入を、新宿、上野・浅草、新橋、渋谷、横浜のゲイ向け商業施設を中心に、アウトリーチによって展開した。検査や治療に関する情報、相談機関の情報など、HIVに関する様々なリソースをMSMに向けて紹介する情報サイト「HIVマップ」を構築し、紙資材とWebサイトを同期させ、一貫した広報戦略によって訴求力の高さを示した。



#### ② MSMの受検行動を支援する検査・相談体制の整備

2008年から2009年にかけて保健所等の検査担当者を対象とした研修(セクシュアリティ理解、MSM対応の模擬体験)を通じて、MSMの検査を積極的に受け入れる検査体制を整備し、「あんしんHIV検査サーチ」として保健所等検査施設を各種の相談支援機関情報と共にWebや冊子で広報する体制を整備した。



## 2010年度首都圏「できる!」キャンペーンポスター

「そっちも大丈夫でしょ？」  
そんな風に言われたら、  
本当のこと言えないよ…。

感染しているなら、早く知って欲しい! そう思う皆さんの理由があります。

SEX  
STOP  
HIV

6月～7月期「SEXできる!」

「リスクリーなことを  
くりかえしていたのは、  
知るのが怖かったから…」

「感染しているなら、早く知って欲しい!」 そう思う皆さんの理由があります。

SEX  
STOP  
HIV

8月～9月期「すぐできる!」

自分自身を隠けだして、  
泣きじゃくって、  
やっと自分自身を真っ直ぐに  
見る事が出来るようになった。

検査を受ける前にも、あとにも、安心して相談を受けられる場所があります。話が

SEX  
STOP  
HIV

10月～11月期「話ができる!」

彼が治まらない友人に勧めた  
HIV検査。結果は「陽性」で  
即入院の切羽詰まった状況だった。  
言って良かった。  
今も彼といっしょにいられるから。

セーフなセックスすること、検査を受けることは、  
自分のためはもちろん、誰かのためにも役にたつこと。

SEX  
STOP  
HIV

12月～1月期「ストップできる!」

### 3. 阪神圏地域の MSM を対象にした啓発介入

#### ① MSMに訴求性のある啓発介入の開発

阪神圏のMSMを対象に、検査行動を促進させるための啓発介入を、Webサイトや紙資材、公共空間における受検行動促進啓発イベント『PLuS+2006-2010』（参加者6,000人/回、内MSM60%）によって展開し、新たな啓発介入対象層を取り込んだ。商業施設利用層、非利用層の双方に向けて集中的に働きかける7つのプログラムを経年的に実施した。

#### ② MSMの受検行動を支援する検査・相談体制の整備

阪神圏で初めてとなるHIV陽性者のための電話相談「陽性者サポートライン関西」および陽性者支援プログラムを構築し、検査でHIV陽性が判明した陽性者への支援体制を構築した。

陽性者支援のための電話相談体制「陽性者サポートライン関西」は、相談員の育成、地域の相談にかかわる専門職ネットワークを構築するためのケースカンファレンスなどを実施し、地域の支援環境の構築を行った。

#### MSM阪神圏/支援団体・相談体制整備

MSMの受検行動や受療行動を支援する相談体制を整備  
POSP（陽性者サポートプロジェクト関西）を組織




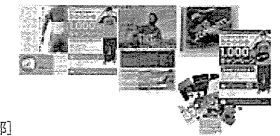
POSP電話相談	陽性とわかった人のための電話相談 毎週水曜日19時～21時
ひよっこクラブ	陽性とわかって間もない人へのグループミーティング 1期3回のグループミーティング
カンファレンス	陽性者支援に関わる人々のネットワーキングと情報共有
保健師研修	検査・相談に関わる保健師の研修や自主勉強会への協力
2007	●POSP電話相談[相談件数10件]
2008	●POSP電話相談[相談件数36件] ●カンファレンス[開催回数3回、参加者計74名] ●大阪市保健師研修[実施協力1回] 大阪市保健師自主勉強会[実施協力1回(5回シリーズ)]
2009	●POSP電話相談[相談件数34件] ●ひよっこクラブ[実施2期、参加者計11名] ●カンファレンス[開催回数2回、参加者計41名] ●保健師研修[実施協力1回] 大阪市保健師自主勉強会[実施協力1回(3回シリーズ)]
2010	●POSP電話相談[相談件数28件(1月21日現在)] ●ひよっこクラブ[実施3期、参加者計12名] ●保健師研修[実施協力1回] 大阪市保健師自主勉強会[実施協力1回(5回シリーズ)]

#### ③ クリニック検査キャンペーン

阪神圏では、首都圏のような保健所等でのMSM受検機会を拡大する介入体制が構築できなかったが、MSMのHIV検査を促進するクリニック検査キャンペーンを7クリニックから協力が得られ、2009年、2010年は8か月にわたって受検促進の広報を実施した。

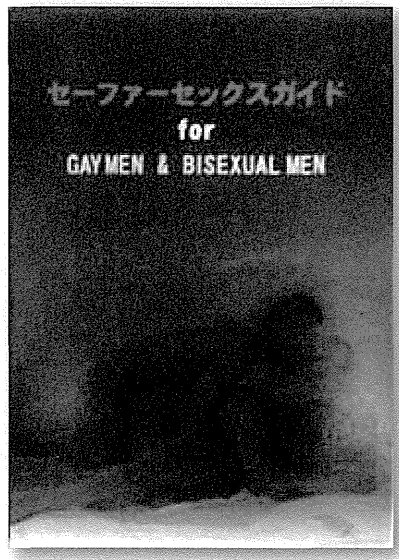
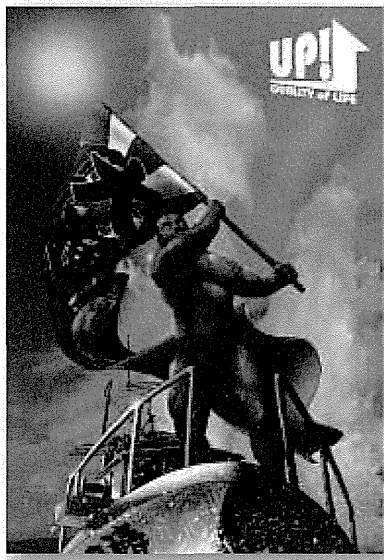
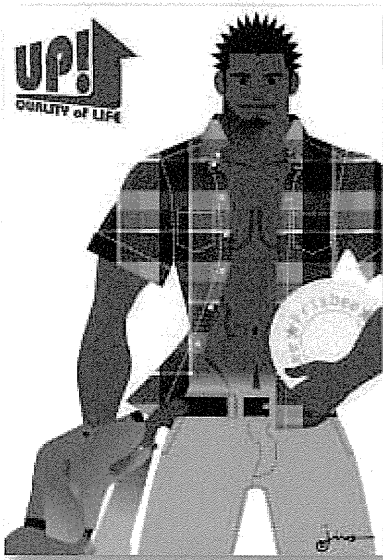
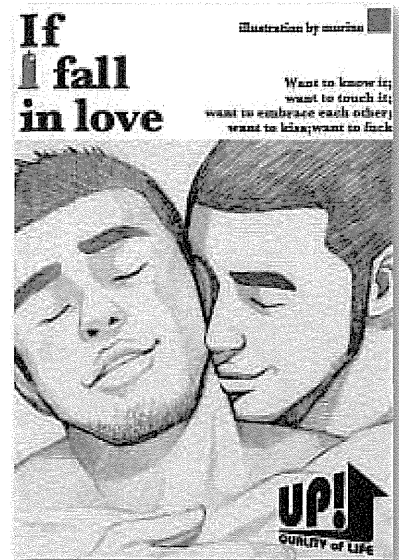
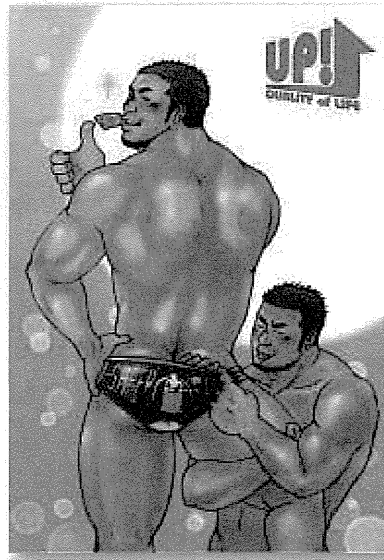
阪神圏全域のエイズ発症者の増加を抑えるまでの影響を及ぼすには至らなかったが、クリニック検査キャンペーンやイベント会場における迅速検査会MaQを利用したMSM受検者のHIV陽性率は高く、MSMに向けた新たな検査機会を企画・構築し、その有効性を実証した。

#### MSMが受けやすいSTDクリニックの確保 MSM阪神圏クリニック検査キャンペーン

2007	●実施期間[2008年3月～5月(2ヵ月強)] ●参加クリニック数[3施設] ●受検者数[28人] ●HIV陽性率[約14.0%] ●キャンペーン冊子[197軒に8,910部] ●ポスター[194軒に194部] ●コミュニティーペーパー(SaL+)に記事掲載	
2008	●実施期間[9月～10月(1ヵ月半)] ●参加クリニック数[7施設] ●受検者数[17人] ●HIV陽性率[約5.9%] ●キャンペーン冊子[318軒に6,800部] ●PLuS+2008/パンフレットで広報[15,000部] ●コミュニティーペーパー(SaL+)に記事掲載	
2009	●実施期間[5月～12月(8ヵ月)] ●参加クリニック数[7施設] ●受検者数[272人] ●HIV陽性率[約4.4%] ●キャンペーン冊子[185軒に5,445部] ●クラブ用コンドームキットで広報[4,900個] ●ハッテン場用コンドームキットで広報[58,800個] ●ホームページ[期間セッション数:3,530(PC)/5,793(携帯)] ●PLuS+2009/パンフレットで広報[15,000部] ●コミュニティーペーパー(SaL+)に記事掲載	
2010	●実施期間[5月～12月(8ヵ月)] ●参加クリニック数[7施設] ●受検者数[263人] ●HIV陽性率[約5.7%] ●キャンペーン冊子[225軒に6,500部] ●ポスター[195軒に195部] ●キャンペーン冊子[11月][193軒に5,850部] ●バー用コンドームキットで広報[154軒に15,330部] ●クラブ用コンドームキットで広報[4,900個] ●特製CDで広報[1,000枚] ●ホームページ[期間セッション数:4,031(PC)/7,230(携帯)] ●PLuS+2010/パンフレットで広報[18,000部] ●コミュニティーペーパー(SaL+)に記事掲載	



# 2009 年度阪神圏コンドーム配布キット



## 学際的・国際的・社会的意義

- 首都圏ではこれまで殆どエイズ関連の啓発介入がなかった地域での啓発活動を展開し、阪神圏では、6000人規模の大型イベントを経年的に開催し、MSMの中でもHIV/AIDSに無関心な層を呼び込んだ。Hard to reach層であるMSMにおいて、当事者NGOの訴求性のある啓発活動により介入対象層が拡大したことは社会的意義が大きい。
- 首都圏では保健所等の検査キャパシティの高い施設において、阪神圏ではクリニックにおいて、MSMの受検しやすい受検機会を確保し、検査行動を促進させた。本研究は、当事者NGOと関係機関が協働する研究体制を構築し、検査普及や予防介入に関する啓発事業と効果評価を行う研究を連動させて取り組むことの有効性を明確にした。今後のエイズ対策の展開に重要な成果が得られており、社会的意義が大きい。

## 今後の研究・施策への発展性

- HIVマップ、検査担当者へのMSM対応の研修会、陽性者支援のための電話相談、阪神圏のMSM対象のクリニック検査、イベント会場での即日検査体制などは、他地域のMSMを対象とした啓発介入の参考となる。また、MSMに加えて、脆弱性の高い性産業従事者やIDUなど他の個別施策層にも有用であり、一般化できる。
- 本研究におけるNGO/NPO参加型の関係機関が協働する研究体制は、訴求性も高く効果的な介入を実施しておりエイズ対策のモデルとなる。
- 保健所・公的検査機関でのHIV検査受検者数や受検者の属性の動向は予防啓発や早期検査・早期治療のエイズ対策効果を把握する上で有用であり、本研究で開発した調査法は今後のエイズ対策に活用できる。



## 研究成果の公表状況

- 一般国民向けに戦略研究に関するシンポジウムを開催(東京、神奈川、大阪)
- 2010年7月NHK教育テレビ「ETV特集」で取り組みの一部を放映
- 保健所等のHIV検査担当者に向けたMSMやHIV陽性者への対応に関する研修会の実施
- HIV検査で陽性告知を受けた人への電話相談体制等のマニュアルを作成予定
- 今後、MSMへの取り組みとして参考となるガイドラインを作成予定
- 国内外の学会発表(日本エイズ学会、The 10th ICAAP、The 11th ICAAP、等)

## 費用対効果

- 一般国民を対象とした大規模キャンペーンはMSMへの訴求性は低くその有効性は明らかではない。当事者NGOが実施する啓発介入は低コストで比較的短期間にMSMの受検行動を促すことに成功した。今後HIV感染率の高いMSMの受検行動を促進し、その受け入れを増やす体制の構築が望まれる。
- HIV感染症の医療費はおよそ20万円/月で、生涯医療費は1億円程度と推定される。本研究では1億7000万円/年が首都圏、阪神圏のMSMを対象とした研究課題1に充てられた。MSMに訴求性のある啓発は、HIV検査受検行動やHIV感染予防行動を促進しており、これはエイズ発症やそれに伴う死亡を減少させ、またHIV感染者の発生を抑制することとなり、結果として医療費の抑制に貢献することが期待される。
- 本研究の啓発活動は、企画、実施、継続できる予算規模と研究体制がなければ実施が不可能である。戦略研究の終了によりこれらの取り組みが縮小されれば、MSMへのエイズ対策の後退となる。

首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象としたHIV抗体検査の  
普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究(研究成果報告概要版)

編集制作：MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究  
(研究代表者 市川誠一)

発行：平成23年度  
厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究推進事業)  
研究成果等普及啓発事業

平成23年11月30日

公益財団法人エイズ予防財団  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12水道橋ビル5階  
TEL:03-5259-1811 FAX:03-5259-1812